

# プレスタにこ 児童発達支援 支援プログラム

事業所名	発達サポートセンター プレスタにこ
作成日	2024/12/02

事業所理念	<p><b>遊びは学び / 遊びで脳を育てる</b></p> <p>遊んでいるとき、お子さんたちは楽しみながら考えたり工夫したりして、心も体も動かしています。例えば、鬼ごっこでは走るだけでなく、どうすれば逃げられるかを考えたり、友だちと協力したりします。ごっこ遊びでは、自分の役割を考えながら相手とやり取りをして、想像力や伝える力を伸ばします。こうした動きや経験は、お子さんたちが自然と成長していく上でとても大切なことです。</p> <p>私たちは現代社会で不足している『遊びを通じてお子さんたちがのびのびと成長できる機会・環境』を大切に、お子さんたちが遊びを通して考え、挑戦し、成長する機会を提供したいと考えています。そして、このような活動を支えるために、ブレインジム、感覚統合、応用行動分析、コーチングなどの知見を学び、取り入れています。これらの知見を活かすことで、遊びがより深い学びや発達のサポートへとつながる環境を整えています。</p> <p>事業所の理念に基づき「遊びで脳を育てる」という意図を持ってお友達やスタッフと過ごす日々が、社会スキルや生活スキル、そして学校でのお勉強など全てにつながる、<b>発達の土台になる</b>と信じています。</p>
	<p><b>遊びを通じた学びの提供</b></p> <p>鬼ごっこやドッジボールなどの身体を動かす遊びを中心に、感覚統合や原始反射統合の要素を取り入れ、発達の土台を形成します。</p> <p><b>自主性の尊重</b></p> <p>お子さんたちの自由な発想や選択を重視し、平日の活動では自主性を最大限に尊重する支援を行います。</p> <p><b>安心・安全な環境の提供</b></p> <p>お子さんたちが心から安心できる環境を整えることで、社会性や生活スキルの向上を促します。</p> <p><b>家庭との連携支援</b></p> <p>宿題の時間を設け、家庭での負担を軽減しながらお子さんたちの学びを支えます。また、保護者と連携して成長を共有し、一緒に歩む支援を目指します。</p> <p><b>多様な体験の提供</b></p> <p>山や川での自然体験、料理やバーベキューなどの多様な活動を通じて、お子さんたちに幅広い経験と成長の機会を提供します。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>平日の流れ</b></p> <p>【営業時間】10時～19時 【サービス提供時間】12時30分～18時30分 【送迎サービス】あり</p> <p>13:00 → 来所・自由時間 13:10 → はじめの会 13:15 → 主活動 13:30 → 自由遊び 13:55 → かえりの会 14:00 → さようなら</p> <p>14:30 → 来所・自由時間 14:50 → はじめの会 15:00 → 主活動 15:30 → 自由遊び 16:00 → かえりの会 16:15 → さようなら(送り開始)</p>
	<p style="text-align: center;"><b>休日の流れ</b></p> <p>【営業時間】9時～17時(長期休暇9時～18時) 【サービス提供時間】10時～16時30分(長期休暇10時～16時30分) 【送迎サービス】なし</p> <p>10:00 → 来所・自由時間 10:10 → はじめの会 10:15 → 主活動 10:30 → 自由遊び 10:55 → かえりの会 11:00 → さようなら (児発対象のイベントの場合) 13:00 → 来所・自由時間 13:10 → はじめの会 13:20 → 調理や公園へのお出かけ等のイベント 15:00 → おやつ 15:15 → 自由遊び 16:00 → かえりの会 16:30 → さようなら(送り開始)</p>

<b>本人支援</b>	
健康・生活	<p><b>生活リズムの安定化</b></p> <p>利用開始時に体調や疲労度をスタッフが確認します。これにより、生活リズムと体調の関連性を意識させ、健康的な習慣づくりを支援します。</p> <p><b>基本的な生活スキルの向上</b></p> <p>着替えや手洗いなどの基本的な生活習慣を、楽しく学べるよう支援します。活動を通して、片付けや整理整頓といったスキルを自然と身に付ける機会を提供します。</p> <p><b>栄養と健康への理解</b></p> <p>おやつ作りなどの活動を通じて、食材の選び方や簡単な調理方法を学び、栄養への理解を深めます。</p> <p><b>自己管理能力の支援</b></p> <p>活動前後に、体調や疲労度を確認し、自分の状態を把握する力を育てます。必要に応じて、視覚的なスケジュールやチェックリストを用いて、日々の生活を自己管理する方法を支援します。</p>
	<p><b>感覚統合の促進</b></p> <p>鬼ごっこやかくれんぼなどの遊びを通して、身体の協調性やバランス感覚を育みます。原始反射統合の要素を取り入れた活動(体幹を使った運動、方向感覚を刺激するゲームなど)を定期的に行い、お子さんたちの発達を支えます。</p> <p><b>感覚過敏への配慮とサポート</b></p> <p>光や音に敏感なお子さんには、照明や音量を調整し、安心できる環境を提供します。必要に応じて、イヤーマフやサングラスなどの補助具を活用します。触覚や動作に関する困りごとには、楽しく取り組める感覚統合遊びを取り入れ、自分に合った対処法を見つけられるよう支援します。</p> <p><b>身体を動かす楽しさの体験</b></p> <p>山や川での自然遊びを通して、五感をフルに活用しながら自然の中での身体活動を楽しみます。立つ・座る・手先を動かすといった多様な身体の動きを取り入れ、全身の動きを引き出します。</p> <p><b>基礎体力の向上</b></p> <p>鬼ごっこやリレーなどの運動遊びを定期的に取り入れ、走る、跳ぶ、投げるといった基本的な運動能力を高めます。遊びを通じて、疲労の感じ方や適切な休息の取り方についても学び、持久力や回復力を育てます。</p>
認知・行動	<p><b>目標設定と計画のスキル</b></p> <p>遊びや活動を通じて、自分で目標を設定し、その達成に向けて計画を立てる力を育みます。例えば、工作や色塗りでは完成までの手順を考えたり、ドッジボールではチームの戦略を考える活動をサポートします。リマインダーや視覚的スケジュールを用い、時間管理の方法を楽しく学べる機会を設けます。</p> <p><b>問題解決能力の向上</b></p> <p>鬼ごっこやかくれんぼといった遊びの中で、予測や判断を必要とする場面を通じて、状況を理解し、柔軟に対応する力を育てます。チームでの活動では、課題やトラブルが起きた際に、スタッフの支援を受けながら解決策を見つける練習をします。</p> <p><b>集中力と自己制御の支援</b></p> <p>個々の特性に応じて、活動前に環境を整備(物の整理整頓、静かな空間の確保など)し、集中しやすい状況を作ります。活動の中で、「止まる」「待つ」といった自己制御を練習していきます。</p> <p><b>自己理解の促進</b></p> <p>活動を振り返る時間を設け、「何が得意だったか」「次にどうすればさらに良くなるか」を考える機会を提供します。自分の行動や感情について、スタッフとの対話を通じて気づき、理解を深められる環境を作ります。</p> <p><b>柔軟な対応力の育成</b></p> <p>遊びのルールを変更したり、活動内容を途中で調整することで、変化に対応する力や柔軟性を楽しく学びます。チーム活動では、他者の意見を取り入れる練習を通じて、多様な視点を受け入れる力を育てます。</p>

言語・コミュニケーション	<p><b>スタンス自己表現のサポート</b> ドッジボールやかくれんぼなどの遊びを通じて、自分の意見や希望を伝える練習をします。ルールの提案やチームの相談時に、自然な形で言語表現を促します。</p> <p><b>相手の気持ちを考える力の育成</b> 遊びの中で、他のお子さんたちの表情や反応を観察しながら、相手の気持ちを想像する場面を増やします。スタッフが間に入り、適切な言葉の選び方やタイミングについてのフィードバックを行い、他者視点を身に付ける支援をします。</p> <p><b>トラブル時の対話サポート</b> けんかや意見の食い違いが起きた際には、スタッフが対話の橋渡しをし、冷静に気持ちを伝え合う方法を練習します。トラブル後には、その場面を振り返り、どのような言い方や行動が適切だったかを一緒に考える時間を設けます。</p> <p><b>言語理解の補助</b> 遊びや活動の指示は、視覚的な補助(イラストや文字)を使い、わかりやすく伝えます。語彙が増えるよう、遊びの中で新しい言葉を紹介し、その意味や使い方を自然に学べる環境を整えます。</p> <p><b>非言語コミュニケーションの活用</b> 表情やジェスチャーなど、言葉以外のコミュニケーションの重要性を遊びの中で学びます。笑顔やうなずきなど、相手に安心感を与える非言語の表現をスタッフが実演し、お子さんたちに伝えます。</p> <p><b>安心できる対話の場作り</b> 「話したい」「聞いてほしい」という気持ちが自然に生まれるような、リラックスした雰囲気作りを重視します。</p>
人間関係・社会性	<p><b>チーム活動を通じた協調性の育成</b> 鬼ごっこやドッジボールなどのチームで取り組む遊びを通じて、仲間と協力する大切さを学びます。ルールの共有や役割分担をスタッフがサポートし、協調性を育みます。</p> <p><b>共感力の向上</b> 一緒に達成感を味わえる活動(工作や調理、ゲームなど)を通じて、仲間との絆を深めます。</p> <p><b>社会的ルールの学び</b> 活動の中で、時間を守る、順番を待つなどの基本的な社会的ルールを自然に学べる場を提供します。ごっこ遊びなどを通してリビングスキルや、ソーシャルスキル(例えば挨拶や感謝の言葉)を楽しく練習する機会を設けます。</p> <p><b>他者を頼る力の育成</b> 遊びや活動中に「困ったときはどうすればいいか」を考え、スタッフや仲間適切に助けを求める練習をします。スタッフが積極的にお子さんたちと対話し、お子さんたちが安心して相談できる雰囲気を作ります。</p> <p><b>安心できる関係作りの支援</b> 「失敗してもいい」という安心感を持てる雰囲気作りを重視し、お子さんたちがチャレンジしやすい環境を提供します。</p>

家族支援	<p><b>家庭との連携強化</b> 保護者の方と定期的にコミュニケーションを取り、お子さんの成長や活動の様子を共有します。送迎時や個別面談を通じて、具体的なエピソードを伝え、安心感を提供するよう心がけています。必要に応じて、家庭での支援方法や環境調整のアドバイスを行い、お子さんの成長を家庭でもサポートできるよう支援します。</p> <p><b>情報提供と学びの機会</b> 発達や特性についての情報、進路選択に役立つ情報を提供する場を設けます。保護者向けの勉強会や相談会を定期的に開催し、具体的な支援方法を学ぶ機会を提供します。例えば、「感覚統合を家庭でサポートする方法」「自主性を育てる声かけの工夫」など、保護者の方が日常生活に取り入れやすい内容を提案します。</p> <p><b>保護者同士の交流の場の提供</b> 勉強会やイベント後に保護者同士が気軽に話し合える場を設け、情報交換や悩みの共有を促します。</p> <p><b>個別対応の充実</b> 保護者の方の希望や相談内容に応じて、個別面談を実施します。お子さんの将来や課題について、具体的なアドバイスや計画を提案します。必要に応じて、園や医療機関との連携を行い、保護者の方が適切な支援を受けられるようサポートします。</p>	移行支援	<p><b>進路選択のサポート</b> 園や進路先との情報共有を行い、合理的配慮や環境調整がスムーズに進むよう支援します。</p> <p><b>生活スキルの向上</b> 将来の自立生活を見据え、金銭管理や時間管理、家事スキルなどの基礎を遊びや日常活動を通じて学びます。自主性を尊重しながら、計画立てや課題解決力を養う支援を行います。</p> <p><b>保護者と連携した進路準備</b> 保護者の方と定期的に話し合いの場を持ち、お子さんの進路希望や適性について情報を共有します。</p>
地域支援	<p><b>地域との連携強化</b> 幼稚園や保育園、医療機関、福祉施設、地域団体などと積極的に連携し、お子さんたちの支援環境を地域全体で整備します。必要に応じて、地域の専門家と協力し、個別支援計画の作成や合理的配慮の実現を目指します。</p> <p><b>地域資源の活用</b> 地元の公園、図書館、自然環境を活用し、五感を刺激する活動や新たな学びの場を提供します。地域商業施設や職場の見学・体験を通じて、お子さんたちが地域の中で将来をイメージできるようサポートします。</p> <p><b>防災・安全教育の推進</b> 地域の防災訓練や安全教室に参加し、災害時に役立つ知識と行動力を身に付けます。防災グッズの使い方や避難場所の確認を通じて、地域住民としての意識を育てます。</p>	職員の質の向上	<p><b>定期的な研修の実施</b> 感覚統合や原始反射統合、発達障害への理解を深めるため、専門家を招いた定期研修を実施します。職員がお子さんたちの特性や支援技術について学べるよう、オンライン研修や外部セミナーへの参加を奨励します。</p> <p><b>実践を通じたスキルアップ</b> 日々の支援活動の中で振り返りの時間を設け、各職員が成功事例や課題を共有し、互いに学び合う機会を作ります。チームでのケースカンファレンスを定期的に実施し、お子さんたちの支援方針を職員間で統一します。</p> <p><b>専門資格取得の支援</b> 職員が保育士資格や福祉系資格、感覚統合療法などの専門資格を取得するための情報提供や経済的支援を行います。資格取得後には学んだ知識を活かし、事業所全体の支援レベル向上に貢献できる環境を整えます。</p> <p><b>外部機関との交流</b> 地域の学校や医療機関、福祉施設との交流を通じて、最新の支援技術や情報を職員が学べる機会を設けます。他施設との合同研修や見学を行い、幅広い視点を持てるようサポートします。</p> <p><b>フィードバックの仕組み</b> 職員同士で定期的に評価や意見交換を行い、個々の課題や強みを明確化して成長につなげます。</p> <p><b>質の高い支援の継続</b> 定期的に事業所の活動を振り返り、支援方針や活動内容をアップデートし、常に最善の支援を提供します。</p>

その他	<p><b>オンラインサービスの活用</b> 保護者が忙しい場合でも参加できるよう、オンライン講座や相談会を開催します。</p> <p><b>設備の充実</b> お子さんたちが安心して過ごせるよう、遊びや学びに必要な道具や設備を整えます。例えば、感覚統合を促す遊具や静かに集中できるスペースを設置します。施設内外の安全性を高めるため、定期的な設備点検や清掃を徹底します。</p> <p><b>利用者の声の反映</b> お子さんたちや保護者からの意見を定期的に収集し、プログラムや施設環境の改善に活用します。年に一度アンケートを実施し、サービスの質向上に向けた取り組みを公開します。</p> <p><b>緊急対応の強化</b> 緊急時の対応マニュアルを整備し、職員全員が災害時や医療対応に必要な知識を共有します。定期的に避難訓練を実施し、お子さんたちが緊急時にも冷静に行動できるよう訓練します。</p> <p><b>デジタル化の推進</b> お子さんたちや保護者への連絡は、デジタルツールを活用して迅速かつ正確に行います。例えば、LINEでの連絡網を整備しています。支援記録やスケジュール管理をデジタル化し、職員の負担軽減と情報共有を効率化します。</p>
-----	---